

未来社会を見据えた人とデジタルの関係の在り方に関する研究会（第4回）

議事要旨

1. 日時 令和8年6月16日（火） 15:00～18:00

2. 場所 総務省内会議室及びオンライン

3. 出席者

（1）構成員

辻座長代理、生貝構成員、小塚構成員、標葉構成員、野田構成員、藤本構成員、
宮田構成員、矢野構成員

（2）総務省

安藤情報通信政策研究所長、神保情報通信政策研究所調査研究部長 ほか

4. 議事

（1）第3回会合における議論のポイント

（2）未来社会検討のためのワークショップ

5. 議事概要

議事次第に沿って、事務局説明にて第3回会合における議論のポイントについて確認した後、グループAとグループBに別れて未来社会における利点や懸念を洗い出す検討のために、制約を設けず広く議論する形でワークショップを実施した。その後、各グループの代表よりワークショップでの議論を発表し、第4回会合は終了した。ワークショップの概要は以下の通り。

【ワークショップの概要】

① グループAで行われた議論

◆ どんなサービスが浸透しているか？

- 距離によらないマルチモーダルなコミュニケーションサービス。
- モニタリングした情報を元に個人の信用・信頼情報を保証するサービス。

- 個々人の行動履歴だけでなく意識などの精神活動に基づいて、他人やアバターとの人間関係をマッチングするサービス。
- 裁判官が他者の経験や再現シミュレーションを体験するサービス。
- チップと外界との通信を遮断する道具またはスペースを提供するサービス。
- 動物にチップを埋め込み、行動監視や行動変容を行い自然環境を調整するサービス。
- 埋め込み型チップ
 - ✧ 人体や動物にチップを埋め込み、チップ通信や給電技術が確立した社会。
 - ✧ チップによるモニタリングや行動履歴といった情報取得が可能になり、多様なサービスを展開する基盤になる。
- 現場追体験
 - ✧ 記録してある行動や意識から状況を再現して、シミュレーション上で体験することで犯罪事件の裁判に活用する。
 - ✧ 被害者の記憶をすべて追体験することは、裁判官の精神的ケアコストが高くなるので、AIの補助を得て判断することになる。
 - ✧ 記憶の改ざんができてしまう場合、お金をかけて性能の高い状況再現システムを使った方が裁判で勝つ。
- 傘式セーフティスペース
 - ✧ 物理的な展開構造物を利用することで、強制的に通信を遮断し、情報センシングや外部からの情報受信を防ぐサービス。
 - ✧ 外部通信の遮断によって意識や記憶の改ざんから自身を守る。
 - ✧ 現在のセキュリティの概念（お財布、スマホの盗難防止）から、何を守るべきかの概念が変わる。
 - ✧ 犯罪に転用される可能性もある。
- 自然調整
 - ✧ クマなどの動物にチップを埋め込んで、行動監視をして自然を管理する。
 - ✧ チップで動物の行動変容や制御で動物被害を減らす。
 - ✧ 自然環境中にチップを設置することで、線状降水帯予測や花粉症、自然災害予測精度が向上する。
- 信頼性判定

☆ 今まで人と人とのコミュニケーションがベースだったところに、デセプションできるAIエージェントが紛れこむことで、言葉や語ることに對する信頼は薄れていく。

☆ 埋め込みチップで記録された履歴から個人の信頼性を判定する。

☆ 信頼のみで構成された社会は、信頼性に基づいた社会階層の固定化を招く可能性がある。

- ウェアラブル・ミクロ地政学

☆ ウェアラブル機器や埋め込みチップによる監視から、認知・メンタルについてのプライバシーといった内面の情報をどう守っていくかが問題となる。

☆ 地域・エリアにいる人々の信頼性情報から、リアルタイムに治安レベルがわかる。

☆ 趣味・嗜好に合わせて、遠近問わず人やAIアバターとマッチングして、コミュニケーションするようになる。

☆ サイバー空間上でコミュニケーションが完結することから、意識・記憶に意図的なバイアスがかけられる可能性もある。

☆ 自身の周囲の情報が増えるため、差別・暴力といった社会階層問題への意識が鈍麻していく。

- ◆ 今との違いは？

- どの場所・場面の、何が変わるのか？

☆ 他者との関係・信頼に係るコストが劇的に下がり、コミュニティが円滑化する。

☆ 完全記録社会・ユビキタス化が進んで誤審は限りなく少なくなる。

☆ 神経・意識まで影響が及ぶ監視社会になる。

- 社会との関わり方が変わる人々

☆ 高齢者や体の自由が利かない人でも、テクノロジーの補助を受けて健常者と同程度のコミュニケーションや肉体労働が可能となり、働き続けられるようになる。

☆ 働き盛りの世代で仕事に追われ時間がない人でも、趣味・性格によるマッチングサービスで交友関係を広げることができる。

- 価値観の変化は？

- ☆ アバター相手の交友関係が当たり前になる。
- ☆ コミュニケーション手段においてリアルな会話の比重が下がる。
- ☆ 社会全体の受容性が高くなることで、非行がマイルドになっていく。
- ☆ 大半の人は社会階層に対する意識が鈍麻していき、暴力や戦争に対する関心がなくなっていく。
- ☆ 親子関係も含めた人間関係が必ずしもリアルのものである必要はなくなっていく。
- ☆ 個人セキュリティが物質的なものから、記憶・意識を含む情報へと重点が移っていく。

- ◆ 社会・サービスの影響

- 人間関係マッチングが効率化し、距離などのコミュニケーションバリアが解消されていき、再婚が当たり前になり、家族の物理的距離制約が緩和される。
- 人との関係構築コストが下がることで、孤独化が解消される。
- ウェアラブルデバイスによる行動察知や家族コンサルにより、子育て・教育が発展する。
- 動物にチップを埋め込み、監視・行動変容することで自然管理できる。
- 新しい技術に対する子供の過剰適応が現在よりも顕著になる。
- 信頼性だけで成り立つ社会も、ある種の大変さがある。
- 大変なことはどんどん背景化していくが、それはいい面もあり悪い面もある。
- 魚の追跡技術向上により食料資源の収穫量は増えるが乱獲の可能性あり。
- ニューロライツのように精神活動のプライバシーが侵害される可能性がある。

- ◆ 解決した社会課題

- 個々人の特性に合わせた交友マッチングによる孤独解消。
- VRやロボット、AI技術のサポートを得た障がいやハンデの克服。
- セーフティスペースの確保による精神的な逃げ道の確保。

- ◆ あらたな社会課題

- 信頼のみに依拠した社会構造になったことで、信頼レベルで立場が固定されてしまう。
- ニューロライツの観点も含めたプライバシーの保護が必要になる。

- 意識や記憶の改ざんが起こりうる。
- 社会の構成員が、社会階層・暴力・戦争への無関心になっていく。

◆ どんな社会？

- 人の脳や身体、環境や動物にチップが埋め込まれて、モニタリングを通じて個人行動や制度が最適化されていくが、一方でネットワークにつながることを拒否したり、立場・状況から逃避することができるセーフティスペースの確保された社会（→ チップに抗う権利が保障された社会、逃げていい社会、自然調整社会）

② グループBで行われた議論

◆ どんなサービスが浸透している？

- 背景化された第3者機関が会話を記録しており、ハラスメントを対策するサービス。
- スタッフコモンルームのように半分開かれて半分閉ざされた空間を提供するサービス。
- 秘密レベルを自動的に判定して、他者プライバシーの漏洩に当たる行動を防ぐサービス。
- 個人が人間らしく生きていく上で経済・人間関係など最低限必要なものをサポートするサービス。
- 自身のトラウマや思考・身体的な癖といった暗黙知を忘れるサービス。
- 暗黙知を忘れる権利
 - ☆ サプリなどを使って暗黙知を忘れる技術。
 - ☆ トラウマやイップス対策としての活用が考えられる。
 - ☆ 手術によって身体に変化があったとき、元の体の癖が原因でうまく体を動かせなくなることがある。医療リハビリ現場での活用が考えられる。
 - ☆ 表現者・芸術家が新たな創造性を模索するために、手癖のようなものをリセットできる。
 - ☆ マイクロアグレッションといった無意識の差別を解消。
- 人間らしさベーシックインカム
 - ☆ 経済だけでなく、文化・社会も含めた支援サービス。

☆ 国ごとに文化背景が異なるため、保障の内容も異なってくる。

☆ 無縁社会対策として、AIアバターも絡めて保障していく。

☆ チャレンジが人間として幸せを高める。

☆ 告発・通報しにくい世の中を変える可能性がある。

- つなぐプライバシー保護

☆ 保護するだけでなく、繋ぐことは大事だが危険な面がある。

☆ カバードチャネルのように第三者による情報流出でプライバシーが侵害されることがある。

☆ データ使用・発信するときに大丈夫か判定する仕組みがあるといい。

☆ Web上の自身に関して公開される情報範囲をコントローラブルにする。

☆ 会話などは自衛のために録音して残しておきたいが、会話参加者にとっては記録が残ってしまう怖さもある。

- 雑談社会

☆ 雑談によって新しいつながりが生まれる。

☆ 議論によって生まれたアイデアがAIで即実現される時代になるため、スピード勝負。

- ◆ 今との違いは？

- どの場所・場面の、何が変わるのか？

☆ 大学などの教育の場で、悩み事があった時に、気軽に相談しやすくなっていく。

☆ アーティストやクリエイターが新たな創造性を開拓するときに、既存の癖に囚われずに試行錯誤できる。

☆ 孤独に取り残される人がいなくなり、無縁社会が解消される。

- 社会との関わり方が変わる人々

☆ 仕事上で多くの人と関わる中で、知らない間に入づてに自分の個人情報が広がっていたり、どこかに公開されてしまい困っていた成人が、新しい社会になり自分の情報がむやみに流出することがなくなり平穏に生活できるようになる。

- 価値観の変化は？

☆ チャレンジすることが幸福につながる。

☆ マイクロアグレッションのような無意識の差別がなくなる。

◆ 社会・サービスの影響

- 発言に問題性が無いことを確認してから主張できる。
- 人間らしく生きるための最低限が保障されているためチャレンジしやすい。
- ハラスメントが起きやすい組織でハラスメント相談窓口ができるようになり、第三者が記録を残すようになる一方で、記録が残ってしまうことの怖さもある。
- 雑談で共有したアイデアを、先に他の人が形にしてしまう。

◆ 解決した社会課題

- 会話録音が残ることでハラスメントを防げるようになる。
- 多様なベーシックインカム の在り方を、AIの補助を得て実現することで、人間らしい最低限の生活が可能になる。
- 失敗しても最低限の生活が保障されることで人生におけるチャレンジのハードルが下がる。

◆ あらたな社会課題

- 記録した情報の取り扱い方や責任の線引きによっては、アイデアを奪われてしまったり、言質を取られて不利になってしまう。
- 新技術のサービスを提供している国が、他国への使用禁止をすることによる格差が発生する。

◆ どんな社会？

- お互いが委縮せずに雑談できるようになることで、人間関係の円滑化や知的交流が進み、皆が好きなことにチャレンジできるようになる社会（→ ティーブレイク社会）

以上